

2. 前回委員会の指摘事項と本委員会での審議事項

資料-1

— 目次 —

- 2.1 前回委員会(R7.2)の指摘事項と
本委員会での対応内容
- 2.2 本委員会の審議事項

2.1 前回委員会（R7.2）の指摘事項と本委員会での対応内容

前回委員会の指摘事項と本委員会での関連事項

前回委員会 項目	前回委員会(第14回)		本委員会(第15回)
	指摘事項	事務局回答	対応内容
富士海岸の 土砂動態	<ul style="list-style-type: none"> ● 20m以深に移動した土砂は戻ってこないため、富士海岸全体で増加傾向である事が良いという評価ではなく、養浜を実施しているにもかかわらず20m以浅では減少傾向であることを共通認識として持つ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 侵食の課題がないというような誤解を与えないよう、表現に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸全体としては土量は増加しているが侵食傾向の箇所もある、との記載に修正。 (資料-3 p.4)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂収支図について、昭和放水路をうまく通過させたとしても、No6付近でも沖合の流出傾向がみられる。昭和放水路以東に到達させることができたとしても沖合への流出が生じることは前提として、対策を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沖合への流出も考慮した養浜計画等を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的な土砂投入が必要な動的養浜として引き続き養浜計画を検討。 (資料-4)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続きホットスポットの確認をするという理解で良いか。 ● サンドバイパスによって田子の浦港～昭和放水路間の浜が回復したのは大きな成果であるが、土砂の沖流出も確認されているので、今後はできるだけホットスポットの下手側に投入するのが良いのではないかと、その検討を今後も実施するというのでよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有識者へのヒアリングも想定しつつホットスポットの確認を行うとともに、引き続き等深線変化モデルによる養浜・サンドバイパスの縮減検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有識者へのヒアリングを実施し、引き続き等深線変化モデルによる養浜・サンドバイパスの縮減検討を実施。 (資料-4)

2.1 前回委員会（R7.2）の指摘事項と本委員会での対応内容

前回委員会の指摘事項と本委員会での関連事項

前回委員会 項目	前回委員会(第14回)		本委員会(第15回)
	指摘事項	事務局回答	対応内容
富士海岸の 侵食対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度は直轄(沼津河川国道事務所)の方で、2万m³程度浚渫を実施されるときいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 試行的に田子の浦港からのサンドバイパス(海上養浜)を2万m³/年程度実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 試験施工については今年度静岡河川事務所にて実施済み。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂流出防止工背後に堆積した土砂が沖流出せずに沿岸方向に流れてほしい施設なので貯まっていると困るのだが、本当に流れているかどうかを知りたい。現在は土砂流出防止工の背後を通過しているようだが、それが流出防止工があったからと言えるかどうかの確認にはなっていないのではないかということだと思うので、はっきりさせるようなモニタリングが必要だと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地形変化や底質変化などの間接的な効果評価ではなく、土砂流出防止工の直接的な効果評価方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3次元流体解析により、土砂流出防止工の設置時前後の土砂損失量を推定。 (資料-4 p.10~16)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なトライアルケースがなされて効果を確認されていると思うが、来年はサンドバイパスが1万m³/年に減少することで土砂の堆積傾向に影響が出ると思われる。養浜やホットスポットの効果は出ると思うが、一方で消波堤区間への追加投入が必要との記載もある。どうしたらこの5.5万m³/年を減らせるのか、投入距離が延びれば(ホットスポットを回避すれば)その分運搬コストが増えることなども踏まえ、トライアルにより理想となる養浜、事業完了までだけでなく、(県移管後の)維持養浜まで見据えて引き続き検討していただきたい。 ● ホットスポット回避による影響(消波堤区間の侵食傾向)については、粒径の粗いものを優先的に投入するなどの対応も選択肢にはいるのではと思うので考慮して検討していただけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き等深線変化モデルによる養浜・サンドバイパスの縮減検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き等深線変化モデルによる養浜・サンドバイパスの縮減検討を実施。 (資料-4)

2.1 前回委員会（R7.2）の指摘事項と本委員会での対応内容

前回委員会の指摘事項と本委員会での関連事項

前回委員会 項目	前回委員会(第14回)		本委員会(第15回)
	指摘事項	事務局回答	対応内容
今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ● そろそろ事業が終わりに近づいているという印象を持っている。要望として、効果的・効率的で持続可能な養浜方法の検討をお願いしたい。また、富士川の総合土砂管理計画が定まれば、富士川からの養浜の確保も視野に入れる必要があると思うので、引き続き総合土砂管理計画についても検討を進めていただきたい。 ● 土砂の管理は難しいが、そこが重要な海岸であるというのは共通認識であり、県移管前に計画を作成してほしいという指摘もあった。関東、中部と所管の話もあるが、国として対応するという姿勢は必要だと思う。前回指摘したことを今回も指摘したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合土砂管理の進捗確認および連携を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合土砂管理の進捗状況を確認した。 (資料-4 p.30)

2.2 本委員会の審議事項

■本委員会において審議をお願いしたい事項は以下のとおり。

本委員会の審議事項

項目	審議をお願いしたい事項
富士海岸の土砂動態 (資料-3)	<ul style="list-style-type: none">富士海岸全体の地形変化や、事業実施中の吉原工区の地形変化や沖合侵食の実態など、富士海岸の土砂動態検討結果についてご意見をお願いいたします。
富士海岸の侵食対策 (資料-4)	<ul style="list-style-type: none">土砂流出防止工のモニタリング調査結果や、土砂動態を踏まえた侵食対策の今後の方向性についてご意見をお願いいたします。